

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:25.

リンパ浮腫外来での取り組み

中村智美、脇坂亜季、小山内美智子

リンパ浮腫外来での取り組み

看護部 外来ナースステーション 中村 智美、脇坂 亜希、小山内美智子

1. 緒言

乳がんの患者教育においては内服薬や副作用対処、リンパ浮腫の予防等、患者の自己管理能力を高める関わりが重要である。当院では、1998年に開設されたマンマ外来で、乳がん術後の生活指導やリンパ浮腫指導を実施していた。2008年外来でのリンパ浮腫指導患者は上肢44名下肢56名100名であった。2008年度診療報酬改訂により、リンパ浮腫指導管理料の新設や弾性着衣が療養費の対象として認可され、リンパ浮腫の治療に取り組む環境も整ってきている。2009年6月、マンマ外来から独立して、リンパ浮腫外来を立ち上げた。目的は、リンパ浮腫の発症予防と増悪を防ぎ患者のセルフケア能力を向上することである。リンパ浮腫外来開設までのチームでの取り組みと今後の展望を報告する。

2. 実践結果

リンパ浮腫外来プロジェクトチームの役割

リンパ浮腫外来プロジェクトチームは、乳腺外科医師・血管外科医師・外来看護師（リンパ浮腫指導技能者養成講座研修終了者含む）・医療支援課で構成した。当プロジェクトチームでは、リンパ浮腫外来意義・目的を共有し、リンパ浮腫指導対象患者とニーズの把握、受診システム・料金設定・広報等について検討、DVD・パンフレット等教材の作成、スタッフ教育を実施した。

1) 受診システム

- ①医師の診察：リンパ浮腫治療の適応判断
- ②リンパ浮腫外来：「リンパ浮腫指導指示書」に基づき、「集団指導」又は「個別指導」の実施
- ③リンパ浮腫外来再診：看護師がリンパ浮腫の状況とセルフケアの評価
- ④医師診察：リンパ浮腫の評価、管理方法の変更

2) 外来看護師の教育

当初リンパ浮腫指導を担っていたマンマ外来は、2名の看護師で実施していたが、ローテーションに対する課

題があった。また患者ニーズも増え、複数の外来看護師が同じレベルで指導できるように教育計画を立てた。リンパ浮腫の複合的理学療法指導は、トレーニングを要するため、リンパ浮腫指導技能養成講座受講看護師による実技を含む学習会を3回実施した。フォローアップとして、DVDを見ながら個人トレーニングを実施、指導者による評価とフィードバックを行った。

3) 患者指導用DVDの作成

当リンパ浮腫外来での目的は「患者のセルフケア能力を向上する」ことが目的であるため、DVDの内容は看護師がマッサージする画像ではなく、患者自身がセルフマッサージをするような構成とした。構成は①リンパ浮腫とは②リンパ浮腫の治療③日常生活の注意点④上肢リンパドレナージ⑤下肢リンパドレナージ⑥上肢バンテージ⑦下肢バンテージとした。

4) 患者指導用パンフレットの作成

5) リンパ浮腫外来開設直前のシミュレーション

3. 考察

1) リンパ浮腫の患者教育

リンパ治療は発症予防のための指導と、発症後より早く適切なケアに取り組むこと、患者が主体的に治療に参加できるようセルフケア能力を高めるような関わりが重要である。

2) リンパ浮腫外来の今後の課題

- ①リンパ浮腫外来での実績からエビデンスの蓄積
- ②患者ニーズにあったリンパ浮腫外来運営
- ③患者指導看護師の質の維持向上のための教育

4. 参考文献

- 1) 作田裕美 (2008)：質の高いリンパ浮腫ケアの提供に向けて。看護技術 54 (10)：49 - 55